

徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2004年度 No.58



徳山工業高等専門学校

目次

巻頭言	1
開校30周年記念特集～写真でつづる徳山高専の30年～	2
この動きに注目！2004徳山高専十大ニュース	10
ホームページTop Newsで綴る徳山高専この1年！！	11
就職・進学状況	16
就職試験・進学試験体験記	19
卒業生だより	22
退職者あいさつ	27
新任者紹介	28
徳山高専キャリアサポートシステム 進路支援室の設置について	34
創造教育とイキイキ学生 出でよ「技術のイチロー、松井」	36
お知らせ「JABEE認定取得！」	40
編集後記	41

これまで



これからも

写真でつづる徳山高専の30年 昭和49年(1974年)~58年(1983年)



当然 みんな若かった！ 昭和53年(1978年)



第2回入学試験 昭和50年(1975年)
1期生は宇部高専、2期生は徳山高校で受験した



仮校舎 旧富岡小学校
昭和49年6月(1974年)



初代校長 城 温三
— ガンコー徹 学者肌 —
昭和49年6月~58年9月



第2回高専祭ゲート 昭和51年(1976年)
車は通行止！ 教職員からは不評だった



第1回卒業式 昭和54年3月(1979年)
無事卒業証書を手にした田村隆弘先生

校舎等の変遷



造成中の様子



第1期工事終了後



第2期工事終了後 昭和51年(1976年)



現在 平成17年(2005年)

写真でつづる徳山高専の30年



第2代校長 福岡純一郎
— 温厚な文人 —
昭和58年10月～平成3年9月



混合学級の開始 昭和62年(1987年)～



クラブ対抗駅伝 昭和59年1月～(1984年)



1年生合宿訓練 (於: 江田島青年の家)
昭和53年(1978年)～平成2年(1990年)



第1回全学ロボコン 平成2年11月(1990年)



3年生合宿研修 (於: 三瓶青年の家)
昭和60年(1985年)～平成3年(1991年)

昭和59年(1984年)~平成5年(1993年)



NHKロボコン全国大会準優勝! 「白猫号」
平成3年(1991年)



第3代校長 大山 超
— 決断と実行の人 —
平成3年10月~平成8年6月



平成3年10月(1991年)発足



2年生合宿研修 維新の道「萩往還」
昭和63年(1988年)~平成5年(1993年)

エンリコ君

チャラームボン君



初の外国人留学生卒業
平成2年3月(1990年)



雪の登校風景 昔は30cmつものこともあった



ホンダ・エコノパワー出場
平成4年9月(1992年)

写真でつづる徳山高専の30年



創立20周年記念講演 東京大学総長 吉川弘之氏
平成6年6月(1994年)



高専祭メイン企画「時計台」
平成6年(1994年)



第1回専攻科入学式
平成7年4月(1995年)



専攻科設置記念式典 前東京大学総長 有馬朗人氏
平成7年5月(1995年)



第4代校長 西口千秋
— 実務型知性派 —
平成8年7月～平成14年1月



留学生の夕べで挨拶する西口校長
平成5年～

平成6年(1994年)~



専攻科棟竣工
平成9年3月(1997年)



活躍した岡田広太郎投手
平成9年(1997年)



学生会による花壇の整備
平成15年(2003年)



第5代校長 天野 徹
— 都会的センスと明るい笑い声 —
平成14年1月~



クラスマッチに騎馬戦が復活
平成15年(2003年)



第30回高専祭 閉会式で挨拶をする実行委員長の藤岡雄太君
平成16年(2004年)

徳山高専学内ロケマップ



塚本高史と長澤まさみ



藤本先生の部屋と撮影スタッフ



不良グループ?の面々



徳山高専での撮影は高城寮の屋上から始まった



撮影用に建てられた第2ロボット部の部室



長澤まさみさん
映画「ロボコン」で初めて主演女優となった長澤さんは、「世界の中心で愛を叫ぶ」でアキを演じてブレイクした。



第1パソコン室での撮影

映画「ロボコン」のすべてのロケは、周南地域で行われた。中でも徳山高専キャンパス内には多くのセットが設けられ、時間をかけて撮影が行われた。

NHKロボコンでの実績や、瀬戸内海を背景にした工場群の景観から、徳山高専が映画「ロボコン」の舞台に選ばれた。映画の中で、徳山高専は実名で登場、主演の長澤まさみさんが着る制服も徳山高専の女子学生の制服がそのまま使われた。学校の全面的な協力体制のもと、教職員、学生が、保護者や市民の方とともにエキストラとして協力した。



写真提供：東宝株式会社



夏休みの自由研究相談室

留学生のふるさと展
 留学生の母国の文化や料理を紹介した。上左はマレーシアを紹介する学生による手作り大型パネル。上右の写真はプレゼンテーションを行うベトナムからの留学生ハーさん。



映画「ロボコン」の古厩監督によるトークショー



徳山高専夢広場

平成15年(2003年)10月29日、周南市の中心商店街の一角に「徳山高専夢広場」が誕生しました。教育・研究をはじめとする徳山高専の文化活動を発信し、同時に中心商店街の活性化に貢献することを目的としています。毎週定期的に開催される「いんぐりっしゅ るーむ」や「パソコン若葉相談室」のほか、ここを拠点にさまざまな活動を行っています。



久米公民館でのパソコン若葉相談室

毎週金曜日に開催される「いんぐりっしゅ るーむ」

徳山高専夢広場 / クラブ活動



サッカー部 悲願の全国優勝(於：木更津市) 平成10年(1998年)



バレー部 5度目の全国優勝(於：伊勢市) 平成16年(2004年)



卓球部 全国優勝の常連(於：木更津市) 平成10年(1998年)



高校野球で17年ぶりのベスト8進出 歓び爆発！ 平成15年(2003年)

この動きに注目！ 2004 徳山高専十大ニュース

1. 創立30周年記念事業の実施

本校創立30周年を記念して、記念式典、記念講演会、祝賀会、映画「ロボコン」上映会など、多彩なイベントが開催された。また、記念誌も発行される。

2. 独立行政法人化と中期計画の制定

本校は、4月から、独立行政法人国立高等専門学校機構の一員となり、今後5年間の業務運営の基本となる「徳山工業高等専門学校中期計画」を策定した。

3. 技術者教育認定（JABEE）の取得

本校の4年生から専攻科までの教育に関し、JABEE認定基準に合致しているとの認定が得られ、初めてのJABEEプログラム修了証授与式が挙行された。

4. 教育改善のための新しい取り組み



新たに募集した「徳山高専教育モニター」の参加を得て、公開授業を実施するとともに、大学評価・学位授与機構による認証評価の試行を受けた。

5. デザコンなどにおける学生の活躍

高専全体の新しいイベント「デザインコンペティション」における最優秀賞獲得、学生による初めての特許取得、その他各種コンクールにおける受賞が相次いだ。

6. バレーボール部12年ぶり全国制覇

バレーボール部が全国高専体育大会において優勝した他、サッカー部、野球部、陸上部、卓球部、テニス部などが全国的な活躍をした。

7. 徳山高専夢広場における活動の進展

留学生のふるさと展を始めとする企画イベントに加え、いんぐりっしゅ☆る～む、パソコン若業相談室のような定期継続的な事業が評判を博した。

8. 小中学生を対象とした新イベントの実施

小学生ロボコン、ロケット打ち上げ大会などを、地元関係団体と協力して、初めて開催した他、日本科学未来館等の協力を得て徳山高専中学校連携講座を実施した。



9. 進路支援室の設置

学生の進路選択に関する支援を計画的に行うため、進路支援室が設置され、企業からも人材を派遣して頂いた。

10. 人事交流の促進、教職員研修の充実

学校運営の活性化を図るため、大学、他高専との任期付き人事交流を行うとともに、新任研修の充実、事務職員の企業派遣研修を行った。



ホームページ Top Newsで綴る 徳山高専この1年!!

徳山高専を飛び立つ122名のみなさん 「卒業おめでとう！」

2004. 3. 18



本校第二体育館で第26回卒業式・第8回専攻科修了式が挙行されました。本科では留学生を含む107名が卒業証書を、専攻科では15名が修了証書を受け取りました。

式終了後、後援会の主催で行われた卒業・修了記念祝賀会では、来賓や保護者のスピーチ、先生方を囲んだ記念撮影などで華やかなひとときを過ごしました。本校を飛び立つみなさんの活躍が期待されます。

夢広場で熱く語った青春ロボコン！ 映画ロボコンの古厩監督トークショー

本校サテライト「高専夢広場」で映画ロボコンのDVD発売を記念して古厩智之監督のトークショーが行われました。監督は映画の道に進んだきっかけや先日受賞した日本アカデミー賞授賞式のエピソードなどを巧みな話術で披露してくれました。

徳山高専後援会が主催した翌日のDVD販売キャンペーンでも監督自らサインを手渡すなど、周南の街への春のプレゼントとなりました。

2004. 3. 25



新生活のスタートです！ 新入生の皆さん入学おめでとうございます

清々しい朝の光がふりそそぐ本校第二体育館で、第31回入学式及び第10回専攻科入学式が行われました。

入学式では機械電気工学科39名、情報電子工学科40名、土木建築工学科46名の本科入学生125名と4年次編入生5名、カンボジア、ベトナム、マレーシア、ラオスからの留学生5名が、専攻科入学式では3専攻23名の計158名が入学を許可されました。これから始まる新しい学校生活が楽しみです。

2004. 4. 5



新居浜に集まった高専専攻科の仲間たち！ 専攻科生研究交流会

高専専攻科で技術者の卵として成長する仲間たちが新居浜高専に集まり、研究発表会がおこなわれました。

この中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会は、学生による実行委員会によって運営されている交流行事で、今年も7高専から学生が138名参加の賑やかな開催となりました。交流会の目玉は夜の懇親会。学生の友達づくりだけでなく各高専のマル秘情報交換はここで一気に加速したようです。

2004. 4. 22-23



徳山高専のがんばり度はどれくらい？ 平成16年度第1回顧問会議の開催

本校の教育研究活動に関する「顧問会議」が開かれました。これは教育、産業、地域の関係者で構成される学外の顧問に本校の取り組みについて意見を求め、活動の検証を行うためのものです。今回は法人化後、最初の5年間の運営方針となる中期目標・計画や教育・レビュー室の活動等について審議されました。ここで受けた提言をよりよい学校づくりへとつなげるために、早速検討が始まります。

2004. 5. 19



いろんな国からこんにちは！ サテライト・夢広場で留学生のふるさと展

高専夢広場で、「留学生のふるさと展－徳山高専留学生を通してみる国際交流の今－」というテーマの企画展が行われています。これは、サテライト運営委員会の学生と教職員、留学生が共同で準備したもので、留学生の母国7カ国についてパネル展示と留学生によるプレゼンテーションで紹介されました。

留学生の楽しいお国自慢のおかげで新発見続出のイベントとなりました。

2004. 5. 22-30



さあ、自信を持って先輩に続こう！

第1回JABEEプログラム修了証授与式

待ちに待ったJABEEプログラム認定証が届き、初めての修了証授与式が行われました。これは徳山高専の本科4、5年生と専攻科のカリキュラムで構成しているプログラム（設計情報工学）が、国際的に通用する技術者教育であると認められたことを意味しています。今回修了証を授与された平成15年度修了生15名は、技術士一次試験免除となるなど「能力が保証された技術者」として社会で活躍してくれることでしょう。

2004. 6. 7



徳山高専は30歳・伸び盛り！ 創立30周年記念式典・記念講演会の開催

2004. 6. 19



周南市文化会館で創立30周年記念行事が行われました。昭和49年に複合学科を持つ新しいタイプの高専として設置された徳山高専は、これから「個性を磨く」という次なるステップへと進みます。

式典後の記念講演はロボコンの提唱者で、NHK高専ロボコン審査委員長でおなじみの森政弘先生。東京工業大学や中学校ロボコンでのものづくりの感動エピソードに参加者約900人が聞き入りました。

硬式野球部が中国地区大会優勝！ スポーツに燃える高専生の暑い夏 Vol.1

梅雨明けの知らせと共に暑い夏のホットなニュースが飛び込んできました。中国地区高専体育大会で各種目の先頭を切って行われた硬式野球で、徳山高専が優勝しました。決勝戦は8回裏のホームランで決めた見事な勝利でした。

これからその他の競技、試合が順次開催されますが、今年は徳山会場で行われる競技もあり、選手、サポート両面での学生の活躍が期待されます。さあ、高専生のスポーツに燃える暑い夏が始まります。



水泳、バレー、サッカーが優勝！ スポーツに燃える高専生の暑い夏 Vol.2

中国地区高専体育大会において、団体競技ではバレーボールとサッカーが、団体戦で水泳が優勝カップを手にしました。個人競技でも多くの優勝・入賞があり、日頃の練習の成果が形となりました。8月6日～10日に行われる全国大会に徳山高専からは、7競技、79名の選手が挑みます。昨年の雪辱を果たそうと燃えるチームや個人競技もあり、まだまだ暑い日々がつづきそうです。



バレー部が5度目の全国制覇！ スポーツに燃える高専生の暑い夏 Vol.3

東海・北陸地区で開催された全国高専体育大会が幕を閉じ、スポーツに燃えた暑い夏が終わろうとしています。選手達はスポーツマンらしいさわやかさで立派な成果を持ち帰ってくれました。団体競技では、バレーボール部が12年ぶり5度目の全国制覇を果たしました。昨年の全国大会決勝戦での悔しさを払拭する見事な勝利でした。この他にも、団体競技ではサッカーと硬式野球が3位入賞と奮闘し、個人競技でも陸上、卓球、テニスで上位入賞がありました。



高専デザコン2004

「ものづくりワークショップ」で2年生が最優秀賞



全国の高専で学ぶ学生達がデザイン（設計）で競い合う「全国高等専門学校デザインコンペティション2004」が石川高専で行われました。この中の「ワークショップ部門」で土木建築工学科の2年生が最優秀賞を獲得しました。これは出題された課題に創造演習の授業で取り組み、学生同士の相互評価で最も評価を得たチーム（6名）が学校代表として出場したものです。間伐材を使って実際に街で使うベンチを制限時間内に制作するという競技に設計、模型、試作品の制作と試行錯誤を重ねて挑んだ成果でした。

現場で学んだ成果に熱い視線 専攻科インターンシップ報告会

2004. 10. 5



今年も専攻科生が3ヶ月に及ぶインターンシップを終えて学校に戻ってきました。専攻科1年生24名は、それぞれの興味や専門を活かして自分で研修先を決め、事前研修を受けてインターンシップにのぞきました。報告会には受け入れ企業や地域の関係者も参加し、ポスターセッションやパネルディスカッションで情報交換の場となりました。今年は、国内の企業や公的機関だけでなく、外国の企業で実習を受けた学生も現れるなど、学生の自主性や行動力が一段とパワーアップした内容で紹介されていました。

新しい授業が始まります 寄付講義「経営管理」の開設

2004



後期から西京銀行による寄付講義「経営管理」が始まります。これは、専攻科1年生の教養課程の選択科目として開講されるもので、工学の専門科目では学ぶことのできない、幅広い経営知識と経営感覚を経済の最先端の実務に携わる専門家から学んでもらおうという多角的な内容で構成されています。高専として全国初の寄付講座の取り組みとなり、4月21日に徳山高専サテライト夢広場で、天野校長と西京銀行大橋頭取が合同記者発表を行いました。

日本科学未来館・毛利衛館長とテレビ会議 徳山高専中学校連携講座

2004. 10. 23



東京の日本科学未来館と徳山高専をインターネットでつないでテレビ会議が行われました。連携講座は、地域の中学生に科学技術に関する興味・関心や知的探求心を高める機会を提供しようと企画されたものです。参加した中学生は、専攻科の学生の援助を受けつつ3回にわたるプログラムで先端技術について勉強しました。締めくくりのテレビ会議では、学生と毛利館長がお互いの顔を見ながら対話し、学生達にとって自分たちが進む「未来」がとても楽しみに感じられる時間となりました。

さすか高専祭 ラーメンの屋台もロボットが活躍?!

2004. 11. 6-7



第30回高専祭が行われました。今年のメイン企画は「ロボットがラーメンを運ぶ新感覚屋台」。これは機械電気工学科がロボット加工、情報電子工学科がプログラミング、土木建築工学科が屋台設計と3学科の学生達がそれぞれの専門を活かして協力して製作したもの。他にも会場から参加型のステージ企画や地域の小学生が手作りロボットで参加した「小学生ロボコン」など今年のテーマ「UNITY」-みんなで仲間意識を持ってワイワイ楽しもう!-というかけ声通りの楽しいお祭りとなりました。

今日は1日高専生！ 中学生のための1日体験入学

来春に入学を考えている中学生向けの1日体験入学が行われました。この日は、朝の入学式から始まり、午前中に一般科目のドイツ語、英語、数学、理科の体験授業、午後からは専門学科体験講座が行われました。中学生222名が自分の興味や関心にあわせて授業を選んで受講しました。そして、お昼休みには、学生食堂での昼食や、図書館や談話室での休憩など高専生の日常を体験。講座修了時には、1日体験入学修了証書が渡され、高専生になりきってキャンパスで過ごした1日が終わりました。

2004.11.13



徳山高専もやっぱり冬は「駅伝」！ 第22回クラブ対抗駅伝競走大会

日本の冬の風物詩は「駅伝」。徳山高専でも毎年冬に行われる「クラブ対抗駅伝」が22年目を迎えました。これは、部活動のクラブ対抗で行われるアットホームな駅伝で、今年は29チームが出場しました。入賞商品のスポーツ券をGETできるかどうかは、クラブ運営の重要なポイント。選手も部員の熱い期待を背負って走ります。また、この駅伝は様々な運動部がそれぞれのユニフォームで走るのが特徴。剣道部が武器をつけて走る姿などはクラブ対抗駅伝ならではの光景で応援する人を楽しませてくれました。

2004.11.27



新年のスタートは餅つきで！ 土木建築工学科の新春餅つき会

2005.1.7



専門棟脇の駐車場で新春餅つき会が開かれました。これは土木建築工学科の5年生と専攻科生を対象に4年前から毎年行われている行事で、これから卒業研究の大詰めに入る時期にみんなで楽しめる機会を持つと企画されているものです。餅つきの経験のない学生が多く、おそるおそる杵を打ったり臼をたたいてしまう姿に、楽しそうな笑い声が広がっていました。ついたお餅でお雑煮を食べて、早速卒業研究に取りかかっていました。

学びの環境がパワーアップ！ 徳山大学との協力に関する基本協定締結

報道関係者を前に「徳山大学と徳山工業高等専門学校の協力に関する基本協定」の調印式が行われました。これは、経済学部、福祉情報学部を持つ徳山大学と設計情報工学を専門とする徳山高専が双方の教育機関としての長所を活かしあおうとするものです。この協定によって、単位互換などの授業のみならず、研究、スポーツ、就職活動、起業等々、幅広い交流が始まります。異分野の出会いによって生まれる新たな発展が期待されます。

2005.1.18



機械電気工学科

今！が将来への地盤作りの時

5年担任 機械電気工学科

助教 小田和広

平成16年度の機械電気工学科5年生は40名で、就職希望者26名、進学希望者14名です。

まず、就職状況ですが、製造業の景気が少しずつ上向いてきたこと、また2～5年後に多くの定年退職者を迎えるため技術伝承の必要性から新規採用を増やすところが多く、300社を超える企業からの求人をいただきました。就職試験を受ける時期も年々早くなる傾向があり、4月中旬にはほとんどの学生が応募書類を送り、その内の約6割の企業が4月中に試験を実施するという状況です。試験内容としては、適性試験および面接が主で、多くの企業で面接試験を重視しており、個人面接の他にグループ面接、社長面接など数回にわたり面接を行います。面接対策が就職戦線を乗り切るキーポイントとなるようです。志望理由をはっきりと自分の言葉で話し、自己アピールを要領よくできるようにしましょう。機械電気工学科では、低学年より推進している創造演習、創造製作で実際に学生のアイデアを苦勞して形にする体験を積んでいますので、面接では他校の学生よりアピールするものを多く持っているように思います。他の学生には無い、自分だけの体験をリアルに情熱を持って人事の方に伝えることができるよう、今を大事に、将来への基礎固めの時と自覚し、様々なことに積極的に取り組み、充実した学生生活にしてほしいと思います。

また4年生で興味のある企業へインターシップに行くのもいい方法です。インターシップは多くの企業で受け入れていただける状況ですので、そこで頑張っって人柄や能力を見てもらえば、その会社から「逆指名」が来る可能性もあります。

専攻科ではインターシップ先へそのまま就職が決まった学生もいます。とにかく、「行動したもん勝ち」ですので、積極的にいきましよう。

進学希望の学生についても大学や研究室についてよく研究しましょう。事前に研究室訪問するなどして、授業の概要や研究テーマ、編入学試験の時期、科目などよく確認しましょう。先輩がいれば先生に紹介していただき、連絡を取るなどすれば、学生にしかわからない情報が得られるでしょう。また、大学でもオープンキャンパス（大学見学会）を実施していますので、ホームページなどで確認し、見学に行くといでしょう。

今年は、専攻科進学の学生が多かったのが特徴です。J A B E E取得や教育研究に対する本校の努力が学生たちに認められたとすれば、大いに喜ばしいことです。現時点では、専攻科は規模が小さく修了生の人数も少ないため、社会からの評価はまだ定着していませんが、逆にそれをチャンスととらえ、「私たちが母校の専攻科の未来を開くのだ」という気持ちで勉学に励んでほしいと思います。専攻科学生の就職・進学もスムーズに行き、全員が志望する分野へ進路が決まっています。修了要件が厳しくなった中、努力してきた結果の賜物でしょう。来年度に入学する専攻科生も実力を磨き、先輩方に続いてほしいと思います。

今の時代、就職すれば勉強は終わりではありません。変化変化の時代ですから、この先もずっと新しいことにチャレンジし続け、自分自身も変化（進化？）しなければなりません。求人をお願いした企業でもT O E I Cや資格取得を推奨し給与に反映させているところもあります。「世界に通用する実践力のある」技術者としての気概をもって卒業後も頑張りつづけてほしいと期待しています。

就職：東ソー、IH|エアロスペースエンジニアリング、日東電工、イクス、カンセツ、日本精工、三菱重工業、NSデザイン、トクヤマ、東レ、NOK、三井ハイテック、明治乳業、コベルコ建機、西川化成、テコム、東洋製罐、東洋鋼板、大阪ガス、カネカ、森精機、東陶機器、帝人ファーマ、ジャパンアウトソーシング、日本ゼオン、広島エルピータメモリ

進学：徳山高専専攻科（9名）、豊橋技術科学大学（2名）、九州工業大学、東京工業大学、岡山大学

情報電子工学科

あなたは何かができますか？

その裏付けは？

5年担任 情報電子工学科

教授 神田徳夫

平成16年度情報電子工学科の卒業予定者数は35名（留学生1名）であり、全員進路が決定しています。その内訳は、就職予定者が19名、進学予定者が16名となっています。

私が就職・進学指導を担当するのは今年が4回目です。前は約10年前でしたが、その年度はバブル景気がはじけた直後の大変不景気な時期となり、求人数も少なく就職斡旋に大変苦労したことが鮮やかに思い出されます。今年度の求人数は約250社であり、10年前の約2倍となりました。その内訳は、情報処理サービス業（ソフトウェア系）約90社、通信・電力・運輸系10社、製造業110社、その他40社となっています。

就職斡旋に先立って、関西、関東方面の企業を訪問して、採用状況や要望される業務内容等を調査しました。業務に関して注目される点は、機器組み込み系のソフトウェア技術者の要望が非常に多いことです。この分野の技術者は、ハードウェア、ソフトウェア両面の技術に精通している必要があります。このことは情報電子工学科が開校以来目指してきた「ハードウェアの分かるソフトウェア技術者」、「ソフトウェアの分かるハードウェア技術者」を育てるという教育目標と合致しており、今後、この分野で活躍する卒業生が増えるものと考えられます。また、製造業においては、バブル期に大量に採用した従業員が数年後に定年を迎えるため、来年度以降、製造技術、生産技術の分野で採用数を大幅に増加する計画のようです。

採用試験を受けるための応募方法が10年前と大きく変化し、自由応募のみ、あるいは、学校推薦と自由応募を併用する企業が大変多くなっていま

す。一昔前は、「学校推薦＝内々定」という図式が成り立っていましたが、今やその面影はほとんどなく、現在の学校推薦は、「採用試験を受ける機会を優先的に与えてあげましょう。」という程度に過ぎず、競争倍率は3～5倍程度となっているようです。自由応募の場合は、数10倍以上の高倍率となるのが普通です。今年度は、30社（学校推薦20社、自由応募10社）を受験し、11社（学校推薦7社、自由応募4社）から不採用の通知を受けました。なお、採用試験で最も重要視されるのは面接ですが、筆記試験（常識、専門、適性）によって不採用となる場合も少なからずあります。面接では、少なくとも高専時代に何を勉強し、入社後何をやりたいのかを具体的に自分の言葉で表現できなければなりません。現在は、各企業共ホームページによる情報提供が充実していますので、これを参考に十分な企業研究をしておくことが必要です。また、技術修得に意欲的に取り組んでいる証としての資格（情報処理技術者試験、工事担任者試験）を取得していると説得力のある売り込みができます。

今年度の就職内定者を業種別に分類すると、ソフトウェア系9名、電力系2名、生産技術3名、その他技術系5名となっており、地域別に分類すると、九州1名、中国7名、関西2名、関東9名となりました。

進学予定者は16名ですが、内訳は、本校専攻科3名、大学11名（留学生1名）、専門学校1名、本校研究生1名となっています。今年は延べ11名が不合格の通知を受けました。最近、大学編入の門戸が広がったとはいえ、過去問などを参考に十分に時間をかけて準備する必要があると思われるます。

今年度は、10月以降も企業から追加募集等の案内が来ており、景気の上向きを実感させます。来年度以降、求人数も増加すると思われるますが、採用基準は厳しくなることはあっても甘くなることはないと思われます。学生諸君には万全の体制で就職・進学戦線に望むことを期待します。

就職：中国電力、国際ソフトウェア、富士通九州システムエンジニア、東ソー（2名）、フジオーネ・テクノソリューションズ、富士通サポート&サービス、関西電力、ハタシ、東京コンピュータサービス、京セラ、新川電機、NECフィールドینگ、宇宙情報システム、山口セキスイハイム、ヤフー、オリンパスシステムズ、NHK、TDCソフトウェアエンジニアリング

進学：徳山高専専攻科（3名）、山口大学（3名）、岡山大学（2名）、豊橋技術科学大学（2名）、静岡大学、宇都宮大学、室蘭工業大学、パンタンデザイン研究所、徳山高専研究生

土木建築工学科

今年の進路状況

5年担任 土木建築工学科

教授 重松 恒美

十数年ぶりにピンチヒッターで5年の担任をすることとなり、感覚の違いにとまどったり、怒りあり、笑いありで毎日忙しくしています。しかし特に就職は毎日毎日が時間との勝負であり適切なアドバイスと学生の企業意識を高める必要があります。バブル崩壊後、機械系、情報系の企業はリストラ、新商品の開発など着実に成果を上げてほぼバブル前の段階まで業績を戻しています。しかしながら、建設系では国の赤字の拡大に伴い公共事業の発注の低下による企業業績の悪化が続いており、そのために採用枠の減少となっています。一部上場企業では大学枠のみで高専採用枠がなくなってきており、あったとしても非常に激戦であり相当優秀でないと合格できない傾向にあります。そのために、本校2学科とは違い、大学枠の切り崩しが必要となり専攻科の充実と専攻科卒が建設系では必要となっています。この傾向はこれからも続くのではないかと思います。

土木建築工学科5年生の進路はまだ確定はしていませんが、今年度の傾向を報告します。今年度の5年生は39名（留学生1名含）で例年進学、公務員、民間の3本柱となっています。この内の17名が進学希望であり3名が他大学14名が専攻科となっています。やはり、費用の安価なこととJ A B E E認定が専攻科進学を多くしています。

公務員志望は例年10名程度いるのですが今年度は6名の志望者があり、実際に合格したのは4名でした。年々難しくなっており、特に国家公務員2種試験は本来高専、短大の枠ですが、公務員希望の大学生が大挙して受験し、合格者のほとんどを占めています。また、学校卒業後就職しないで公務員学校などに通って受験する非現役組が合格者の半数以上も占めている現実があり、ますます

公務員受験を困難にしています。したがって国家公務員2種試験合格は非常に難しく今年度も国家公務員3種のみでした。本学科も4年生のはじめから公務員受験指導をしています。高校から大学進学をするぐらいの覚悟で勉強しなければとても合格は困難であるとおもいます。学生の奮起を期待します。一方、地方公務員も同様に少数激戦であり、確実に1次試験の基礎学力をクリアする必要があります。定員の2-3倍を1次試験で合格させ、2次試験では面接試験があり企業と同じような方法で採用しています。短期間の面接練習では限界があり、物おせせずに正当な自分の意見をしっかりと言えるように平素から議論ができる環境をつくる必要があります。また、学生時代に勉強だけでなく、誇れる何かがあることも重要であると思います。

民間企業に就職が決まった学生は16名です。始めから民間企業を希望した学生は全員就職が決定しました。今年度は建築系企業が若干良くなる大手の建築会社から高専推薦枠として10年ぶりに求人がきました。しかしながら、採用枠は絶頂時の半分程度であり、通常なら合格するはずが不合格となり、やはり少数精鋭で優秀な学生の確保を考えています。この傾向は他の会社でも同じで、長年本学科との信頼関係で推薦学生が不合格になることはほとんどなかったが、採用枠の減少でかなりしっかりした学生でないともまずいようである。また、学校を介さずにインターネット上から直接応募し、試験を受ける学生が増加しているが、ほとんど合格せず書類の準備に忙殺された。結局、推薦枠のある会社に合格しており、高専生の自由応募は若干問題があるように思える。専攻科では大学生との競争でありある程度必要と考えている。

就職：前田道路、セキスイハイム中国、東ソー（2名）、ジョー・コーポレーション（2名）、山崎建設、五洋建設、トクヤマ、エルクホームズ、東京ガス、産機設計、大成ロテック、チューケン、大林道路、一建設、国交省（2名）、山口県、大阪市
進学：徳山高専専攻科（14名）、山口大学、鹿児島大学

就職試験・進学試験体験記

機械電気工学科



弘中一洋

私の就職試験体験記

私は「就職志望」という漠然とした思いのまま、就職活動の時期に突入してしまいました。有名企業や地元企業の名前しか知らなかった私は、1月から続々と学校に求人情報が集まるにつれて、これではまずいと思い、企業のホームページや四季報などをもとに企業研究に没頭しました。そして3月には、第一希望の就職試験が始まりました。順調に一次、二次、と地方選考を突破したものの、5月上旬の最終本社試験で不合格通知を受けました。時期的にも精神的にもかなり追い詰められましたが、「企業側から“うちの仕事を任せられない”と思われたのだからしょうがない。私を必要としてくれる企業こそが私にとって適している企業のはずだ。」と気持ちを切り替えました。そうすることで、落ち着いた精神状態で第二希望の就職試験に臨むことができました。その結果、5月下旬には内定を頂くことができました。

就職試験では、コミュニケーション能力が問われます。面接や小論文、プレゼンテーションが苦手だと自分で感じるようなら、それはまだ就職すべきではない（社会に出る準備が整えられていない）かもしれません。特に、『自分のセールスポイントを企業の中でどう活かすことができるのか』について、常套句ではない、自分の言葉による具体的なアピールは重要だと思います。
(東洋製罐株式会社)



谷村鉄平

大学編入を考えている人へ

私は、もともと就職を希望していました。中学生のときに高専を受験すると決めたのも、就職率がよいということと、5年間ゆっくり勉強ができるということが理由でした。そんなわけで、4年生の秋頃から就職の話を先生方に伺っていました。しかし、自分の理想と現実との間にギャップを感じ、進学へ方向転換することにしました。

数多ある大学から志望校を選択する上で目安となるのは、地理的条件、金銭的条件、成績はもちろんですが一番重要なのはやはり何を勉強したいかです。その他の条件がびったりでも、勉強したくもないことを大学に進学してまで勉強することは苦痛でしかありません。だからといってあまり神経質になっても機（申し込み締め切り）を逃すことがあるかもしれないので、大学は慎重かつ大胆に選ぶのがいいと思います。

大学の編入学試験では数学と英語は必須ですが、併せて物理、化学、専門教科が問われることがあります。高専生の場合、数学はできる方だと言われていますが私の経験だと高専の数学では線形代数が全く足りません。英語はとにかく量をこなす事が重要だと思います。いづれにしても、志望校の過去問題を手に入れて、早いうちに対策を練ることがとても重要であると感じました。もうひとつ面接についてですが、同じ大学でも学科が違うと傾向も違うようです。私が受験した金属工学科の面接内容は、専門教科の問題についてプレゼンテーションをするというものでした。これについても、できれば同じ大学の同じ学科を受験した先輩などに話を聞いておくようにしてください。

試験はとても緊張すると思いますが、試験日までの勉強を思い返して「これで駄目なら仕方がない。」と聞き直れるくらい勉強しまくってください。「人事を尽くして天命を待つ」を実践すれば怖いものなどありません。
(東京工業大学)

情報電子工学科



矢田 絢子

就職活動を体験して

私は、通信業に就職したいと考えていたので、受験する会社を第一志望NTT西日本、第二志望NHKに決めました。NHKの試験の方が一ヶ月ほど早く行われたため、私の就職活動は、まずNHKに対しての準備をすることから始まりました。まず、NHKのことを知るために、NHKのパフレットを何度も何度も読み、そしてNHKのホームページのできるだけ多くのページに目を通すようにもしました。それから、SPI、小論文、面接など試験に必要なであろう対策を春休み中、必死にやりました。そんなことをしていくうちに、初めは第二志望だったNHKに対してどんどん愛着がわき、“この会社に絶対就職したい！”と思うようになりました。そして、すべての就職試験が終わり、4月の終わり頃にNHKから内定をいただくことができました。担任の先生には、NHKを断ってNTT西日本を受験する道もあるからよく考えてきなさいと言われましたが、そのときにはすでに私の気持ちは決まっています。翌日すぐに、NHKに就職することを先生に伝えました。

今回、私の就職活動でよかったことは、会社についてよく調べていったことだと思います。パフレットやホームページをよく読んだことは、面接でとても役に立ちました。答えにくい質問に対しても、その会社についての知識をできるだけ多く持っていることで、何らかの返答をすることができました。面接でも、「ホームページの～というページを読みましたか？」という質問があったくらい、会社についてどれだけ興味をもっているかは、重要な審査基準です。私は、就職活動では、4年の早いうちから求人票などを見るなどして企業探しをすること、受験したい企業が見つかったらその企業についてよく知ること、をお勧めします。

(NHK)



中務 和視

受験を振り返って

編入試験のために本格的に勉強を始めたのは、4年の後期になってからです。春にはすでに大学に進学しようと決めてはいたのですが、なかなか始めることができずにやっと始めました。大学の情報は先輩からもらっていましたが、インターネット等を利用して学科などの情報を集め始めました。

5年になると、クラスの雰囲気が変わりました。進学組も就職組もみんな勉強を表立って始めます。ある友人が「みんないきなり受験生になった」と言っていました。私もそう感じました。集まって互いに教えあったり、教室に話を聞きに行き問題集を借りたりしていました。問題集は何回か繰り返して問題を解き、本当に考え方を理解できているか確認しながらやっていました。

受験の1ヶ月くらい前になってやっと過去問に手をつけ始めましたが、これは失敗したなと思います。過去問は先輩が残してくれたものや学生課で取ってあるものがあるのでそれをやりましたが、どれも高専の授業以上です。それも過去数年分をやるので、かなり時間がかかります。夏休みも、図書室や教室に通いつめていました。

編入試験で大事なことは、情報を集めることです。試験の報告書や過去問などは、できるだけ早く集めて目を通しておくべきです。相手を知れば、自分が何をすべきかが分かるはずです。あとはそれをやるだけです。問題が分からなくても、とりあえず考えてみる事が大切です。これから進学しようと考えている後輩の皆さんも頑張ってください。

(広島大学)

土木建築工学科



岡野真佐代

私の就職体験記

私の就職活動で辛かったことは、クラスの就職希望者がどんどん決まってく中で取り残されていったことでした。今振り返ってみて、自分自身の就職試験に対する準備が足りなかったことが原因だったと思います。

そこで、就職を希望する人は就職試験に対する準備を十分にしておいて下さい。準備をする時に重要なことは、「なぜ自分がその会社を選び、自分が何をしたいか」を明確にしておくことだと思います。そのためには、自己分析をしたり会社をしっかりと調べることが大切です。試験には筆記と面接がありますが、面接を重要視する会社が多いと思います。面接で緊張して失敗しないためにも、練習を重ねて試験に臨んでほしいと思います。(山崎建設株式会社)



西村壮司

進学試験体験記

おじさんA (以下A)：今回の専攻科の試験はどうだった？

西村君 (以下P)：いやあ、辛かったですねー

A：感想はそれだけ？

P：陳腐に聞こえちゃうんですけど、「努力することの大切さ」を実感できました。

A：努力は、してなかったの？

P：はい、1～4年生までは就職希望だったので「勉強は適当に」とか「こんな勉強将来役に立たんし」と思って、ダラダラ過ごしていました。

A：やっぱり、それは良くなかったと？

P：はい、受験勉強をしていてレポートや卒研が後回しになっていたの、特にそう感じました。

推薦で合格が決まっていた友達がうらやましかったです。

A：それは良いことだね！下の学年の子達に、何かアドバイスはあるかな？

P：「そんなことは、分かってるよもっと良いこと言えよ！」と言われちゃいそうですが、一言。

「努力すること」や「今、頑張る」ということは、やっておくに越したことはないと思います。ですから一瞬一瞬を充実させる事に、一生懸命であってください。

やりたいことに、打ち込めることが学生が一番の特権だと思います。そうして過ごした高専生活はたちまち良かったと言える筈です。

努力はいつ始めても、遅すぎることはないと思いますが、とにかく「やっときやよかった…」と思うのが努力だと思うので、是非参考にしてみてください。

A：なるほど、「なってみて初めて分かる」と言った感じだね。

P：まったく・・・経験している人からの話はとても貴重なので、いろんな人から話を聞いてみるのも良いと思います。

－終わり－

(徳山高専 専攻科)

卒業生だより



この道を歩く

機械電気工学科 16期卒

山口県産業技術センター

吉木 大司

私は機械電気工学科を卒業して、12年目を迎えようとしています。しかし私は『スネかじり』を長くしていたので、社会にでてからまだ4年しか経っておりません…（同期には企業の中堅クラスとして活躍している方もいますが）そんなわけで、近況報告と言っても大してネタがないので、まずは職場の紹介から始めたいと思います。

【山口県産業技術センターとは？】

私の勤める山口県産業技術センターは、県内中小企業の技術支援を行う公設試験研究機関です。一口に技術支援と言っても様々なモノがあり、技術的な内容の相談や、製品の開発・評価などを行っています。また技術分野も様々ですので、生産システム部・材料技術部・食品技術部・デザイン部の各部があり、所内で香ばしいパンや魅力的なお酒の香りがただよったり、製品のデザイン案が飾ってあったり、鉄筋の引っ張り試験で大きな破断音がしたりとバラエティーに富んだ職場だと言えます。その他、人材育成の支援もしており、最新技術などを身につけるために研修会を開いたり、企業から研修生を迎えたりしています。最近ではインターンシップで大学や高専の学生さんも受け入れており、今年度は徳山高専からも優秀な学生さんを迎えました。

これら技術支援とは別に、中・長期的な視野を

持って研究開発を進める戦略プロジェクト部もあり、ここでは大学や高専、企業と共同研究をしています。私は、この部内で福祉・医療関係の研究を進めるグループの一員となっています。

ちなみに、徳山高専の卒業生はセンター研究員41名のうち4名（IE卒1名、ME卒3名）で、なんと一割を占めています。

【水平思考】

先にも書いたように、私は福祉・医療関係の研究グループに所属し、現在は独居高齢者の見守りや火災予防のための見守りに関連した技術開発を行っています。「見守り」というキーワードが示すように、ともに生活への安心感を与えることができる技術を目指しています。

一人暮らしのお年寄りの場合、何か問題があったときに緊急連絡を受け付けるサービスがあり、何かあっても大丈夫という安心感があります。しかしそれだけではなく、例えば体調を崩して食事をしなかった時に、遠方にいる家族から「食事してないみたいだけど、どうしたの？」と電話があれば、日々の生活がもっと安心感に満ちたものになるのではないのでしょうか。とはいえ、そのために監視カメラを取り付けても落ち着かない生活になってしまいそうですし、安心感を与えるための装置が数十万もしたのでは気軽に使うことができません。

そこで私たちは家電製品の使用状況を確認することで、高齢者の生活状況を見守るシステムの開発を進めています。家電製品ならば、どこの家庭にもありますし、その家電製品の使用状況は割と簡単な技術で確かめることができます。

実際にこのシステムはほぼ完成し、一般家庭に取り付けて実証実験も進めており、良い評価を頂いています。現在は、このシステムの完成度を高め、製品化することを目指しています。

火災予防システムについては、特許取得も考えていますので、詳しいことは書くことができませんが、やはり簡単な技術を組み合わせたシステムになっています。

技術開発と言うと、日々小難しいことを考えて

いると思われるかもしれませんが、実際にはアイデアが重要だと私は思っています。任天堂でゲームボーイを開発された横井氏も「枯れた技術の水平思考」という言葉を掲げられ、既存の技術にアイデアを加えて、多くのヒット商品を生み出されたと聞いています。ですから、現在徳山高専で行われている“創造演習”はとてもうらやましく思います。私が高専にいたときにこの時間があれば、創造力豊かな技術者になれたらうに…？

【この道を歩く】

また、創造演習という授業以外にも、創造力を高めるために、いろいろなことに挑戦することも良いと思います。

私は数人の仲間と「新聞に載るようなことをしよう！」という目標(?)を掲げて、同好会を結成し、50ccのエンジンを積んだ車(エコランカー)でガソリン1リッターあたり何キロ走ることができるかを競い合うレース(ホンダエコノパワー燃費競技大会)に参加したことがあります。エコランカーの設計から製作、競技への参加と目標に向かって進むことは大変でしたが、自分たちで考え、物事を進めることのおもしろさを十分に味わうことができました。今思い出すと、結構無茶なことをしたと思うこともありますが、このときに得た

仲間と達成感は大きな財産になっています。

ちなみに、このエコランカーは映画「ロボコン」に出演(?)していますので、お暇な方は見てやってください。

この財産ともに、もう一つ私の支えになっているものがありますので、最後にその言葉も紹介しておきたいと思います。それは大学時代に自分の進路で悩んでいたときに会った言葉です。

この道より

我を往かす道なし

この道を歩く

武者小路 実篤

実はどのように解釈するのが正しいのか判っていないのですが、私はふと迷ったときにこの言葉を口にしします。自分の選んだ(選ぶ)道だからこそ、歩いていくのだと。

産業技術センターは宇部市にあるので、なかなか周南方面から来ることが難しいかもしれませんが、見学も随時受け付けていますので、興味を持たれた方はぜひご連絡ください。



山口県産業技術センター 宇部市あすとびあ4丁目1-1

TEL:0836-53-5050 FAX:0836-53-5070 URL:<http://www.iti.pref.yamaguchi.lg.jp/>

卒業生だより



通信という仕事と 高専のみなさんへのメッセージ

情報電子工学科 第16期卒業

株式会社エネルギー・コミュニケーションズ

津森 洋伸

〔はじめに〕

先日、高専祭の折に徳山高専を訪れました。メイン企画やロボコンなどで試行錯誤する学生のみなさんの姿を見て、懐かしく、そして羨ましく思いました。その時に先生方とお話したことがきっかけで、この原稿の依頼を受けました。

みなさんの参考になるかどうかは分かりませんが、私の仕事の概要と、これまでの社会人経験から高専のみなさんに心がけて欲しいことについて書いてみたいと思います。

〔当社の紹介～情報通信事業～〕

当社は、平成15年7月に、中国電力の情報事業子会社（中国情報システムサービス（株））と通信事業子会社（中国通信ネットワーク（株））が合併して出来た会社で、コンピュータシステム構築から企業向けの通信回線、インターネットプロバイダ（MEGAEGG）など、中国地方を地盤に情報通信分野を広範に手掛けています。

徳山高専の卒業生も、中国電力（株）からの出向者も含め、多くの方が活躍しています。偶然ではありますが、現在の私の上司も徳山高専卒の先輩です。

〔私の仕事～最適な通信インフラを目指して～〕

私は通信技術部という部署で、主に企業向け

ネットワークに使われる設備の計画に携わっています。一口に企業向けネットワークと言ってもいろいろな種類や用途があります。インターネットへの接続回線や、会社の本・支店のLANや店舗のPOSレジなどを相互に結ぶための回線などが主な用途ですが、変わったところでは、街の至る所にある携帯電話のアンテナ（基地局）から交換センターの間を結ぶ回線として携帯電話会社にご利用頂いている回線もあります。みなさんが携帯電話を使って話している声やメールも、もしかしたら当社の回線を通してのりかえしているかも知れません。

通信を商売にしている以上、どんなことがあっても通信が切れてはならないというのが至上命題です。しかし、通信機器が故障することもあります。台風や地震などの天災が襲うこともあります。これに対して、いかに低いコストで適切な信頼性を持ったネットワークを構築するか、を検討するのが私たちの仕事です。私が主に携わっているインターネット関係でも、みなさんが電器店などで目にするものとは比べものにならないような性能や信頼性を持った機器を使用します。非常に高価なものですので、どのような機器を選択するか、機器をどれだけ有効に活用するか、といったことは、設備産業である当社の死命を制すると言っても過言ではないと思います。



通信設備の例（基幹ルータ）
1台で千万円！

通信は、今や私たちの社会生活に欠かすことの出来ないインフラです。この社会インフラは、私が携わっている通信設備関係だけでなく、ケーブル（通信線路といいます。）はもちろんのこと、通信設備を設置する建物（局舎といいます。）やこれに付帯する電源や空調などの設備、これらの稼働状態を監視・制御するシステムなど、いろいろな設備や、これらに携わる多くの人々によって支えられています。

通信は、できて当たり前、事故があればニュー

スにもなる、という性格のものです。ですから、自分が計画し、構築したネットワークが何事もなく安定的に稼働できていることの喜びは何よりも大きいものがあります。

【通信局舎の内部（例）】



〔伝送装置群〕

写真は高速デジタル専用線の設備で、私が入社した頃から活躍している種類のものです。通信局舎の中には、こんな感じの装置がずらっと並んでいます。

【電柱の上を見てみると】



〔クロージャー〕
光ケーブルの継ぎ目。この箱の中で光ケーブル同士をつないでいます。

〔余長〕
電柱が移転したなどでケーブルの長さが多少変わっても大丈夫なように、少し余分にケーブルを準備しておきます。

送電線や電話線だけでなく、当社関係のケーブルもあります。

〔高専のみなさんへ〕

今の私から、高専のみなさんに心がけて欲しいと思う点をいくつか挙げてみたいと思います。

1. 視野を広く持つ

私たちが設備計画を行うに当たっては設備予算を意識しなければなりませんし、お客さまのニーズを理解して、それに適した設備にする必要があります。技術的にいくら優れたものであっても、いろいろな制約で受け入れられないこともあります。広い目で見ても最適な仕事を行うことが、今の技術者には求められています。

2. 他人と意思疎通する技術を身につける

会社では1人で仕事を進めることはできません。上司や同僚の考えを理解し、そして自分の考えを上司や同僚に分かってもらうことで、初めて仕事を進めることが出来るようになります。

3. 資格は学生のうちに取る

社会人になると、ふだん仕事としている実務には詳しくなりますが、仕事で携わっていないことや理論には疎くなりがちです。仕事に追われていると学習の習慣も薄れます。したがって、資格はできるだけ学生時代に取っておくことが望ましいと思います。

4. 時代の流れに応じた技術者の輩出を

私が入社した11年前と比べ、当社の通信設備やサービスは完全に変貌し、私が入社した当時構築に携わっていたネットワークは跡形もないほどです。そうすると、技術者に要求されるスキルも自ずと変わって来ます。これは特に先生方へのメッセージになりますが、今の技術者に対する社会からのニーズに適応した高専であって欲しいと思います。

〔おわりに〕

とりとめもなく書きましたが、高専生のみなさんには、何か1つでも没頭出来るものを見つけ、高専生活が充実したものであることを願ってやみません。



電力会社の土木技術者として

土木建築工学科 13期卒業

中国電力株式会社島根原子力建設所

中本 健二

(1) はじめに

高専を卒業して14年、私は、中国電力(株)で土木技術者として働いています。土木を専攻した学生の就職先は、建設会社、建設コンサルタント等が主なものとなります。しかし、その他にも土木技術者を必要とする企業が、多々あります。その一つが電力会社であり、その技術分野において建設業界では、電力土木といわれるカテゴリーを形成しています。このたよりでは、高専生およびその関係者に、電力土木の魅力をお伝えできればと思います。

(2) 電力会社での土木技術者の役割

私は、入社後おもに電源開発業務に従事しています。現在は、島根県で原子力発電所の建設工事に携わっています。電力会社での土木技術者の役割は、電力設備土木構造物の計画、調査、設計、施工、維持管理の各プロセスに対し、全責任を持って対処していく事といえます。

よって、技術的には、個別の構造物に関する事項より、大規模プロジェクトを実施するための幅広い包括的な専門能力が必要となってきます。仕事の内容は、発電所建設計画の進捗に伴い、刻々と変化します。そのため、自分の専門外の技術分野についてもスピーディーに習得する能力が要求されます。

(3) 取り組んでいる仕事

昨年度までは、山口県で上関原子力発電所の詳細調査計画策定を主な業務としていました。

(詳細調査については、テレビ・新聞で時々紹介されていると思います。)

今年度は、発電所敷地造成のための海域工事を担当しており、発電所の護岸、防波堤、発電用冷却水路構造物の設計、施工管理を行っています。日本海沿岸は、瀬戸内海と違い、冬季の波浪が強いため、海上での工事は春季から秋季に行います。よって冬季の間は次年度海上工事の準備をおこなっています。

現在、私は、世界最大級(80t)の消波ブロック製作に取り組んでいます。

原子力発電所は重要構造物であるため、百年に1度作用する波浪および津波に対しても護岸の機能が維持できるよう、大型の消波ブロックを設置する必要があります。製作数量は5千個で、平成17年の春季までに千個を準備し海上工事で使用します。

(4) 技術開発について

この消波ブロックの製作には、中国電力で開発した新素材コンクリートを使用しています。

電力会社が新しい土木技術を開発すると聞くと意外に思われる方も多数いると思います。しかし、発電所建設では、常に新技術の開発、導入を行っており、技術者として最新の土木技術を習得することが可能です。この新素材コンクリートは、火力発電所で発生する石炭灰と製鉄所で発生するスラグを使用した、リサイクルコンクリートです。(石炭灰のリサイクルとしてテレビCMもしています。)中国電力の特許技術であり、私も今回の工事で、強度改良に携わっており、開発した技術の特許申請を行う予定です。

(5) おわりに

一般的に堅いイメージで見られがちな電力会社ですが、土木技術者にとっては、仕事のレベル、スケールの大きさと、魅力溢れる職場といえます。限られた情報ですが、在学中のみなさんが、将来の就職を考える上で、参考として頂ければ幸いです。



ありがとう 徳山高専

機械電気工学科 教授 武平 信夫

いよいよその時がきた。昨年11月のある日、本稿執筆の依頼があった。昨年の上二教官退官時にはそれほど切実感はなかったが、今年度に入り活動の場が狭まるにつれはつきりと退職を自覚するようになった。外堀が埋まった感じである。

恩師戸田先生（元情報電子工学科教授）のお誘いもあり本校へは昭和52年に赴任した。それまでに宇部高専と本校で常勤講師を勤めさせていただいたが、見ると聞くでは大違い。いきなり機械電気工学科3年担任の大役を仰せつかった。学級運営には全くの素人で苦勞もあったが学生が協力的で随分助けられた。その後寮務、教務、学生の各主事補を務めた。思いがけず平成3年度から5年間教務主事を努め、週5日制、20周年行事、専攻科開設などの難問に直面したが、校長および教職員の方々のご支援で乗り切れたように思う。一期生の卒業研究では、驚いたことに学生に依頼したコイルの試作品がその日のうちに出来上がることである。

それまでに経験したことがないことである。その後も授業では見られない探求心を発揮した学生が随分いた。潜在能力は高い。

教育の意外性、可能性を味わった。研究では「渦電流」にこだわりつづけ設備、研究費で多くの方のご援助をいただいた。

ある時には文部科学省まで申請書類を持参していただいたこともあった。教育ではいつも評価が厳しく心残りであるが一応の区切りとしたい。得難い体験をさせて頂き教職員および学生の皆さんに厚くお礼申し上げます。ありがとう、徳山高専。



みなさん ありがとう

学生課寮務係 栄養士 和田眞智子

月日の方のは早いもの、とは月並みな言葉ですが、この3月で定年を迎え、永年勤めさせて頂いた徳山高専とお別れることとなりますと、その言葉が実感となって迫ってまいります。毎年この時期には、人を見送る機会が多くなります。

特に学校に勤める私にとりまして、共に歩んだ学生の卒業を祝福し、送ることが大きな喜びでした。

今、自分が送られる身になった時、改めて回顧することは「人世はめぐりあい」ということです。人の世の幸・不幸は、人と人とが会うことから始まります。

私は、昭和54年の春から縁あって徳山高専での生活がスタートしました。当初は、これまでの病院勤務とは違う学校という環境の中で戸惑うことばかり…その都度、新たな出会いがあり、心のある皆様方の温かいご指導と励ましを頂きました。そうして無事退職の日を迎えられますことを心より感謝申し上げます。

又、学生のみなさんが様々な事に一生懸命頑張っている姿に元気を頂き、そして熱心にご指導されている教職員の皆様の姿に感動を覚えた日のことが思い出されます。

ここに一期一会の気持ちの大切さを学ぶことが出来たことを嬉しく幸せに受けとめ、この心の宝物を、これから先の人生において生かしていくように努めたいと思います。

ありがとう徳山高専！ 長い間お世話さまになりました。



新任者紹介



一般科目
助教授 あま ない かず ひと
天内 和人

・ご出身はどちらですか？

出身は北海道小樽市です。ただし小樽には3才までしかいませんでした。小学校は北海道旭川市、中学・高校は北海道札幌市の学校に行きました。まあ、いずれにしてもバリバリの道産子です。

・本校にこられる前はどちらに？

生まれ育った北海道に飽きたので石川県金沢市にある大学に進学し、そこで学位を取得後、愛知県岡崎市で2年間研究生活を過ごし、今度は日本に飽きたので、その後、6年間米国メリーランド州ボルチモア市、さらにその後3年間テキサス州ダラス市に住んでいました。米国に永住予定でしたが、2002年秋に帰国してからしばらく東京にいました（ただし都会は嫌いです）。

・徳山高専の印象は？

西日本に住むのは初めてで珍しいことばかりです。徳山高専は景色が良いし、学生たちの山口弁がとても可愛らしく聞こえます。学生が自主性にかける事がちょっと気になります。

・ご家族は？

現在、家族は神戸に住んでいます。7才の生意気な一人息子がいます。彼は米国から帰国して神戸に住み始めてまだ1年しか経ちませんが、すでにおかしな関西弁をあやつり、なぜか英語は話しながらなくなりました。

・ご趣味はなんですか？

趣味は、スキー、ヨット、ドライブ、温泉、読書、勉強、早起き、引越しです（ただしヨットはここ数年やる機会がありま

せん）。引越は既に20回以上経験し、セミプロ級です。今度はシーカヤッキングに挑戦したいです。

・今後の抱負をお聞かせください。

徳山高専でなんとか生命科学 research を立ち上げ、それを根付かせ、その面白さを皆さんに理解してもらえよう頑張ります。



機械電気工学科
助手 さか せい がい いち
逆瀬川 栄一

・ご出身はどちらですか？

鹿児島県枕崎市です。

台風がよく中継される町です。

カツオの町として知られ、JRの最終駅のある町です。

・本校にこられる前はどちらに？

鹿児島大学を卒業後、就職活動をしつつ、地元で塾の講師をしていました。

・徳山高専の印象は？

ロボコンの映画や夢広場、JABEEなどいろいろなことに挑戦していて、高専の中でも活気のある学校だと思いました。

・ご家族は？

.....

・ご趣味はなんですか？

ギターを弾くこと、歌うこと、それと走ることです。いい歌に出会うと、朝から晩まで耳コピーをして一日を過ごすこともあり、日々弾き語りに励んでいます。

・今後の抱負をお聞かせください。

いつでも学生のことを第一に考える教員でいたいと思います。また、教員になれた喜びを忘れずにこれからも努力していきたいと思います。



よろしくお願ひします



情報電子工学科
助手 原田 耕治

・ご出身はどちらですか？

埼玉県坂戸市です。埼玉県のほぼ中心に位置し、人口10万人程度の静かな町です。

・本校にこられる前はどちらに？

杜の都「仙台市」にある東北大学電気通信研究所で、日本学術振興会「動的ネットワーク」未来開拓プロジェクトの研究員として約3年間勤務していました。

・徳山高専の印象は？

海と山に囲まれ自然環境に恵まれた学校だと思いました。特に正門手前からの瀬戸内海に点在する島々の眺めは、朝夕夜、そして季節ごとに変化し胸を打つものがあります。

・ご家族は？

妻がいます。

・ご趣味はなんですか？

読書、映画鑑賞、フィギュア収集、猫と遊ぶことです。特に好きな作家は村上春樹、京極夏彦、小松左京です。

・今後の抱負をお聞かせください。

徳山高専を取り巻く状況は、いまやこれまでのようなルールの中での変化に収まらず、ルールそのものが変化していくダイナミックな状況へ移りつつあるようです。私も自身を多様かつ柔軟に変化させることで、このカオスの時勢に対応していけるよう努力していきたいと考えています。宜しくお願いいたします。



土木建築工学科
助教授 河村 進一

・ご出身はどちらですか？

来年には合併で岩国市になりそうな玖珂郡美川町です。徳山高専在学中の5年間は高城寮に住んでいましたので、徳山高専も第二の故郷？です。

・本校にこられる前はどちらに？

徳山高専卒業してから九州工業大学に編入学し、博士後期課程修了後、長崎大学の助手として2年2ヶ月間、そのあと呉高専で2年10ヶ月働いていました。

・徳山高専の印象は？

呉高専で働いている時は徳山高専と比較しながら学校のことを考えていました。中に入ってみると昔とあまり変わってないような気もしています。

・ご家族は？

妻と1歳の息子の三人家族です。まだ、子供が小さいので家の中にもっていることが多いのですが、暖かくなったら家族で山口県内を遊びまわりたいと思っています。

・ご趣味はなんですか？

今は家に早く帰って子供といっしょに遊ぶことです。面倒な作業をできるだけ自動化して、家族と過ごす時間を確保しようと思っているのですが、なかなか空いた時間を造ることは難しいですね。

・今後の抱負をお聞かせください。

昨年挑戦した2つの資格試験両方とも落ちてしまいました。今年再挑戦します。人事交流の期間は残り1年ちょっとしかありませんが、その間にできる限りいろいろなことをしたいと思います。



庶務課長 ^{こんどう} 近藤 ^{ひさみ} 尚美

・ご出身はどちらですか？

山口県玖珂郡錦町です。山口県の東部を流れる錦川沿いに走る錦川清流線の終点です。

・本校にこられる前はどちらに？

弓削商船高等専門学校庶務課におりました。広島大学からの人事交流で赴任していました。

・徳山高専の印象は？

国立55高専の中でも最先端の高専と思います。高台から見る景色はすばらしいですね。(こんな急な坂道を登るとは思いませんでした。)

・ご家族は？

妻と子供2人と雌犬が1匹です。家族は広島市に住んでいます。

・ご趣味はなんですか？

特にこれといった趣味はありません。現在単身赴任のため、料理(?)と悪戦苦闘しています。

・今後の抱負をお聞かせください。

徳山高専のために少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。



学生課専門員 ^{のとう} 野頭 ^{かつみ} 克己

・ご出身はどちらですか？

周南市(旧 徳山市)

本籍地は旧向道村の大道理というところです。付近に何軒か野頭という姓があります。

・本校にこられる前はどちらに？

西京銀行の萩支店に1年8ヶ月いました。

・徳山高専の印象は？

銀行の広報課長時代に周南合併や異業種交流を担当して高専の先生方と交流がありました。子供の夏休みの宿題作成で親子教室に参加しましたが、散々でした。学内ロボコン大会で審査員も経験しました。

・ご家族は？

妻は朋子、1才年下です。老人コーラスでピアノ伴奏しています。

長男、次男とも東京の私大へいっています。

・ご趣味はなんですか？

特にありませんが、強いて言えば、スポーツ鑑賞、映画鑑賞、音楽鑑賞です。

野球はかつて西鉄ライオンズ(稲尾、中西)ファンでした。今はシアトルマリナーズ(イチロー)ファンです。映画はアメリカ映画が好きです。最近NHKのERにはまっています。社会批判のある映画が好きです。日本映画では新婚時代に見た「泥の河」が印象に残っています。音楽はビートルズ(ジョンレノン)の後期ファン世代です。60年代のアメリカンポップスは詳しいです。日本の歌手では同世代のユーミン、山下達朗のFM番組を聞いています。

・今後の抱負をお聞かせください。

2回目の出向経験です。スローペースですが、がんばって期限内に何らかの成果を上げたいと思っています。萩で歴史を再勉強し、松下村塾あるいは明倫館等、教育のすごさを実感しました。

人材の育成は今時代が求めているものであり、一翼を担いたいと思っています。



庶務課専門職員 **石飛 貴明**

・ご出身はどちらですか？

鳥根県出雲市です。大まかに言えば出雲大社の近くになりますが、山口市での生活が人生の約半分を占めるようになりました。

・本校にこられる前はどちらに？

昨年の3月までは、山口大学で勤務し、その間に宇部市の医学部及び工学部を含めて8係を転々とし、本校でお世話になる直前は、総務部企画室企画主任として3年間在籍しておりました。

・徳山高専の印象は？

平成15年度末まで、高専を訪問する機会がなかったため、正直なところ、高専の所在地を把握していませんでしたが、まさか、「こんなに山を登って学校に到着するものとは想像していませんでした。」というのが、第一印象です。

しかし、体育館前からの眼下の風景、正門前付近から急に視界に入る校舎等の風景は、ちょっとしたインパクトがありました。

また、徳山高専の雰囲気は、過去の職場では体験したことのないアットホームなものを感じました。

・ご家族は？

愛妻が約1名と愛娘が1人おります。

・ご趣味はなんですか？

運動をすることです。ただし、以前に比べると、脂肪というお友達がたくさん増えたため、思うようには動けなくなりました。

・今後の抱負をお聞かせください。

高専の法人化とともに着任しましたので、法人化準備で苦勞された皆さんに対して、非常に恐縮しておりますが、今後の徳山高専の更なる発展の一翼を担えればと考えております。



会計課出納係主任 **高村 浩二**

・ご出身はどちらですか？

防府市出身で現在も住んでいます。

・本校にこられる前はどちらに？

山口大学工学部調達係（宇部市）で、主に物品の調達業務を担当していました。

・徳山高専の印象は？

最初に制服の学生と私服の学生が同じキャンパス内にいる光景に驚きました。自然に囲まれてとても静かですので学生の皆さんも良い環境の中で勉強ができると思います。

・ご家族は？

両親と同居しています。

・ご趣味はなんですか？

各種スポーツ観戦です。テレビ観戦がほとんどですが、年に何回かはスタジアム等に足を運んでいます。

・今後の抱負をお聞かせください。

微力ではありますが、徳山高専に貢献できるよう一生懸命頑張りますのでよろしくをお願いします。



会計課総務係 ひろ なか **弘中** か なえ **花苗**

・ご出身はどちらですか？

地元周南市（旧徳山市）です。

・本校にこられる前はどちらに？

広島大学で採用され4年間勤務し、その後宇部高専に変わり2年間勤務していました。主に会計系（委任経理金や科研等の外部資金に関すること、歳入、共済等）の仕事をしていました。

・徳山高専の印象は？

緑に囲まれ、眺めがとても良い所だなと思いました。

・ご趣味はなんですか？

映画鑑賞と買い物です。

・今後の抱負をお聞かせください。

ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、少しでも徳山高専に貢献できるよう、頑張りますので、よろしくをお願いします。



会計課用度係 おおしま **大島** ゆう すけ **祐輔**

・ご出身はどちらですか？

山口県山口市です。幼稚園から大学まですべて山口市です。はじめて山口市外で生活することになりました。

・本校にこられる前はどちらに？

徳山高専で働くために勉強していました。大学

女子バレー部の監督をしたり高校男子バレー部のコーチをしたり、アルバイトをしたりのんびりしていました。あまり褒められた話ではありませんが、徳山高専に行こうと決心できたので私にとっては貴重な時間だったと考えています。

・徳山高専の印象は？

バレーボール部が強い。私が高校時代に何度か練習試合で対戦したことがありますが、非常にねばり強いすばらしいチームでした。

山の中でありながら海が見える景色は、天気がいいとつい外に出たくなるような、働くには最高の環境だと思います。

・ご家族は？

自由気ままな独身です。

・ご趣味はなんですか？

バレーボールは15年くらいやっていますがいまだに新発見が多く、飽きることはありません。体育館で学生に混じってプレーしたり、夏にはビーチバレーをやったり、体が動く間はプレーをしっかり楽しみたいです。

あとは九州ドライブ。九州各地に出かけておいしいものを食べて温泉に入るというものです。現在鹿児島遠征を計画中で黒豚と指宿を楽しもうと思っています。

・今後の抱負をお聞かせください。

私の「ヤリタイコト」のキーワードは、“新市誕生による地域連携強化”“若い人材育成をする教育機関”“バレーボールの指導”の3つです。徳山高専はこの3つをすべて満たしてくれています。最初の2つのキーワードに対しては、この環境の中で徳山高専・周南地域に対して、ソフト面・ハード面でどのようなアウトプットができるか？現在はそれを模索するためのインプット段階だと思います。早く仕事を覚えて自分で発想・判断・実践していけるようになりたいです。3つ目のキーワードに対しては、“全国高専大会連覇”が目標です。徳山高専を満喫したいと思います、よろしくをお願いします。



庶務課庶務係 むら なか く み こ 村中久美子

・ご出身はどちらですか？

現在は柳井市より通勤していますが、生まれ育ったのは今年2月に柳井市と合併したばかりの旧大畠町です。家のすぐ前が広い海で、夏は毎日泳いでいました。よく波が来るきれいな海で、今でも大好きな場所です。

・本校にこられる前はどちらに？

学習塾で英語講師をしていました。人に何かを教えること、伝えることの難しさを常に感じていました。

・徳山高専の印象は？

緑があふれ眺望が良く、落ち着きのある良いところだと思いました。また窓の外に目を向けると海が広がっていることも、海好きの私としては嬉しいものです。

・ご家族は？

働き者の父をはじめ、皆それぞれ元気に暮らしています。

・ご趣味はなんですか？

旅行、スノーボード、美術鑑賞です。特にロートレックとミュシャの絵画が好きで、美しい作品の数々にみとれてしまいます。色使いのきれいなもの、広告として描かれたもの、花が描かれているものが好きです。

・今後の抱負をお聞かせください。

皆様にご迷惑をおかけしないよう、私なりに尽力したいと思います。どうぞよろしく申し上げます。



徳山高専 キャリアサポートシステム

ー進路支援室の設置についてー

進路支援室長 田村隆弘

◇はじめに

「人生は、重き荷を背負いて、遠き道を行くがごとし。」と、徳川家康が言いました。電車の無かった時代です。現代風にいうと、「人生は、電車に乗って目的地を目指すようなもの。」と言ったところでしょうか。

世界中のどこへでも、短時間で容易にたどり着くことができる時代になりました。某テレビ局の「世界の車窓から」を見てると、いつものどかな風景がひろがり、豊かな時間、くつろぎのひとつときを感じさせられます。

ところが、実際にはこの電車の旅はそう簡単ではありません。まず、時間を気にしなくてはならないし、切符も購入しなくてはなりません。のんびりして、あるいは、時間を忘れて寄り道していると駆け込み乗車するはめになり、駅員にホイッスルを鳴らされマイクで叱られます。あるいは、車中居眠りして過かしていると目的地で下車できずに、・・・気がつくたびっくり。無事、目的地の駅に到着しても、改札を出る段になって切符を遺失していたとなると大惨事です。そして、ようやく改札を出ると、駅には北口と南口があり、場合によっては中央口やら東口や南口までがあったりもします。そして、この出口を間違えると、薄暗い？地下道を見つけて、ひたひたと重き荷を背負って歩くことになります。また、目的地の予備知識なしに外に飛び出ると大変暑かったり寒かったりして、大風邪をひいてしまうことになり、時にはカルチャーショックを受けることもあります。(これを期待している旅人も多いのかも知れませんが。)・・・いかがですか、人生と似ていると思いませんか。

進路支援室は、ある意味、そんな旅人(学生さん)のためのツアーガイドなのかも知れません。

◇一学生の皆さんへー

充実した高専生活を送っていますか。

将来のことを考えていますか？

将来のことを考えて、今、行動していますか？

10年後、15年後の自分自身の姿をイメージしてみましよう。優秀な技術者として、社会のために貢献し、評価されている自分がそこにいますか。自身と自分の周囲の人を幸せにしている自分がそこにいますか。これまで徳山高専は、優秀な技術者を育成し社会に送り出してきました。JABEEの認証はその成果の証であるといえます。そんな環境の中で皆さんは育まれています。しかし、油断大敵です。徳山高専にただいて、あるいは、ここを卒業するだけで幸せな未来が訪れるわけではありません。将来を見つめ、今を全力で生きる。そうしたことの積み重ねが、大きな力となり礎となります。有限な時間の中で、毎日の勉学あるいはクラブ活動に、・・・少し遠くを見つめながら、ひたすら今を生きて下さい。

進路支援室は、皆さんに将来のことを考えて頂くためのプログラムや、就職や進学といった進路のための準備をする環境を充実することを目的として昨年10月に設置されました。これまで徳山高専で行ってきた進路支援のツールをできるだけ皆さんの目に見える形にし、身近なものにして行きます。現在、皆さんにできるだけ早く色々なサービスができるように作業を進めていますが、以下では、ここまでの準備の状況や今後の予定を紹介したいと思います。



図1 進路支援プログラム (案)

学年ごとに進路を考え、あるいは就職・進学のためのプログラムを準備します。

◇ 進路支援室の活動

○徳山高専キャリアサポートシステム

徳山高専の進路支援活動のために、大きく分けて以下の3つの柱をシステム化します。

- 1) プログラム … 進路に関連する授業や個別指導
- 2) データベース … 求人情報や編入試験といった進路情報の管理・提供
- 3) キャリアサポートブース … 情報提供やミーティングの場

これらは、進路支援室はもとより、クラス担任や各学科、学生相談室、そして学生課が中心となって企画・管理し、学校全体で組織的に運用します。

○進路支援室は、以下のような活動を行います。

- 1) クラス担任の進路指導の作業をサポートします。
- 2) 低学年からのキャリアサポートプログラムを企画・実施します。
- 3) 高学年の進路支援（受験技術指導・情報提供）を行います。
- 4) 大学受験情報、企業就職情報等のデータ管理を行います。
- 5) キャリアサポートブースを設置し、進路情報を学生にとって身近なものにします。
- 6) 卒業生への支援活動を行います。

◇ 現在の状況

1) 進路支援プログラムについて

図1に、来年度の進路支援プログラム（案）を示しています。3年生までの低学年では主にクラス単位でのプログラムで、4年生以上では、個人別のプログラムを用意しています。

2) 情報検索・ホームページ

求人情報や編入学等の進学情報もホームページで閲覧できるよう準備します（図2）。

3) キャリアサポートブース

現在の学生談話室にキャリアサポートブースを設置します（図3）。ここには、情報検索用のパソコンを設置するとともに、就職・進学情報誌を整理します。また、求人等のために来校される企業の方との打ち合わせの場所にもなります。



図2 進路支援室のホームページ（予定）
就職や進学に関する情報を掲載します。

おわりに

進路支援室の活動について簡単に説明しました。本当は、すべて完成した状態でご披露したかったのですが、時間の都合で多くが（予定）の状態での説明になりました。今後、ここで挙げた内容ができるだけ早急に学生の皆さんに提供できるよう努力して行きます。しかし、冒頭にも述べたように、どんな仕掛けを作っても活用するのは皆さんです。どうか、幸せな未来を迎える準備として、充実した高専生活を送って下さい。

◇ 進路支援室のスタッフ

室長 田村隆弘

キャリアアドバイザー 一色誠子（一般科目）
兼重明宏（機械電気） 守川和夫（情報電子）
佐々木伸子（土木建築） 野頭克己（事務主査）



図3 キャリアサポートブース（イメージ図）
求人情報誌や進学情報誌のファイリングや、来校者との打ち合わせに利用します。

創造教育とイキイキ学生

出でよ「技術のイチロー、松井」

機械電気工学科
門脇 重道

高専の特徴を活かした教育が求められています。16歳という柔軟な頭の段階から、受験勉強を経ずに大学レベルの教育まで進めるという特徴を活かす道として、創造教育を掲げて平成7年から取り組みを重ねてきました。現在の日本で最も求められる能力といえば、新たなアイデアを生み出し、新たな技術や産業を作り出す力です。この力が出てこなければ、「人材こそ資源」の日本の将来は明るくなりません。16年度から発足した独立行政法人高等専門学校機構に徳山高専も所属になりましたが、その機構の設置目的には「創造的な人材の育成」が明示されたことから考えても、高専教育の柱として創造教育を確立していくことが強く求められています。機械電気工学科の創造教育もまだ発展途上ではありますが、現在までの取り組みによってイキイキ学生がたくさん出てきています。みなさんの身近な学生が、いろいろな能力を開花させ、成果を生み出しています。そのごく一部を紹介します。たくさんいるので、細かな紹介はできませんが、詳しくはホームページをご覧ください。(本校のメインページから学校案内→創造教育→機械電気工学科の創造教育)

成果をあげた主な学生

1. 谷村鉄平君 (機械電気工学科5年/岐陽中学校)

- ・2002年度プレパテントコンテストにおいて「自転車に代わるスケートボード」が特許化候補作品に選ばれ、2003年3月に特許出願
- ・2002年度理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「誰でも創造性を発揮できる新しい方法の提案」で努力賞入賞

2. 藤井健君 (機械電気工学科5年/熊毛中学)

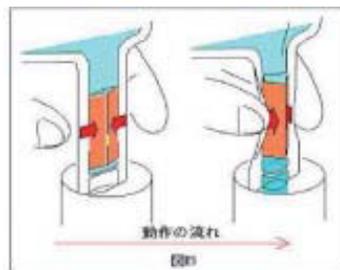
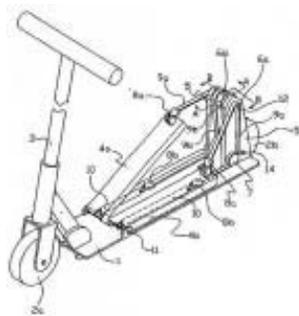
- ・「こぼれない詰め替えパウチの注ぎ口」に関する特許を2003年6月に出願
- ・入学以来オリジナルRCカーを作りつづけ、従来にない独自構造の車を提案し、設計製作すると同時に特許出願予定
- ・NHK及び学内ロボットコンテストなどを含む活動を通して、設計、製作に関しては抜群の能力を示す

3. 片山孟君 (機械電気工学科5年/住吉中学)

- ・「アイデア売買」に関するビジネスモデルをクラブ活動の中で発想し、友人2人とともに2002年7月に出願
- ・2003年度のキャンパスベンチャーグランプリで、先のアイデア売買システムを使ったベンチャープランが佳作に入賞
- ・2002、2003年度の高専祭メインプロジェクトとなるオプジェのアイデア、製作を担当
- ・卒業研究で、独自構造の学習机を考案、製作し特許出願予定

4. 岡本拓也君 (機械電気工学科5年/田布施中学)

- ・「乳幼児うつ伏せ寝事故防止装置」に関する特許を2004年3月と10月(優先権主張)に出願
- ・2004年度キャンパスベンチャーグランプリで、先のアイデアを使ったベンチャープランが環境福祉部門で優秀賞



5. 村中貴志君 (機械電気工学科 5年 / 須金中学)

- ・2001年度理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「消費者の要望、提案が産業の未来を開く」で努力賞入賞
- ・同論文が通信機械工業会機関誌「C I A J JOURNAL」2002年3月号に掲載される

6. 藤井健太郎君 (機械電気工学科 5年 / 大華中学)

- ・2000年度に募集された環境大臣コンテストで特別賞を獲得

7. 幾度明菜さん (機械電気工学科 4年 / 平生中学)

- ・「センサーつき目覚し時計」に関する特許を2003年7月に出席
- ・2003年度先端技術大賞論文コンクールにおいて「Give Me Light! アイデアの実現を目指して」が特別賞に入賞



8. 原田秀彰君 (機械電気工学科 4年 / 桜田中学)

- ・2003年度キャンパスベンチャーグランプリCHUGOKUにおいて「CFRPコイルスプリングを使用した軽量な自動車用サスペンションの販売」が環境福祉部門の奨励賞受賞
- ・創造製作Ⅱで作製した非接触型入力装置に関する特許出願予定

9. 兼重直樹君 (機械電気工学科 4年 / 岐陽中学)

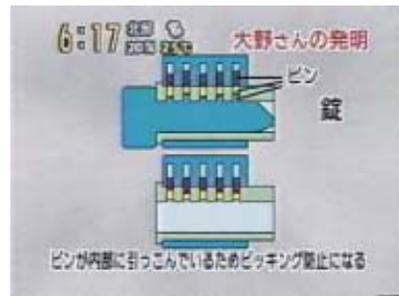
- ・2、3年次の創造製作で行われたロボット競技で連続優勝
- ・2004年度先端技術大賞論文コンクールにおいて「競い合いが育む創造の力」が特別賞に入賞

10. 園田春菜さん (機械電気工学科 4年 / 岐陽中学)

- ・2002年度のエネルギー利用作品コンテストにおいて「リニア駆動のオブジェ」で特別賞受賞

11. 大野充孝君 (機械電気工学科 3年 / 柳井中学)

- ・2002年度のプレパテントコンテストにおいて「ピッキング防止シリンダー錠と鍵」で特許化候補作品に選ばれて、2003年3月に出席
- ・同アイデアによって2004年4月に学生初の特許権取得
- ・学生発明家の日本代表の1人として2004年11月に中国上海で開催された国際発明展に派遣される



KRY「さわやかモーニング」での紹介画像

12. 高瀬善康君 (機械電気工学科 2年 / 田布施中学)

- ・2004年度理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「自然に学んで技術の飛躍を」で努力賞獲得

13. 浅本誠君 (専攻科機械制御 2年 / 深浦中学)

- ・2000年度先端技術大賞論文コンクールにおいて、「21世紀の技術者に必要なもの」で努力賞獲得
- ・大手のオートバイメーカーに就職するよりもはるかに困難とされるオートバイレースの世界で著名なモリワキエンジニアリングに就職内定

14. 兼行秀和君 (専攻科機械制御 1年 / 湯上中学)

- ・「アイデア売買」に関するビジネスモデルをクラブ活動の中で発想し、友人2人とともに2002年7月に出席
- ・「足マウス」に関する特許を2004年6月に出席
- ・「足マウス」のアイデアが平成16年度の周南地域地場産業振興センターのものづくり支援事業に選定されて、商品化を前提とした試作を行なう
- ・2004年キャンパスベンチャーグランプリで足マウスを製造販売するベンチャープランが中国経済産業局局長賞を獲得



出願可能なアイデアは40件以上、5年生の半数はオリジナルアイデアの実績

先に示したのは、創造教育の成果として特許やコンクール入賞という形になったものの中の代表的なものです。実はこの背景にはたくさんの優れたアイデアが存在しているのです。例えば特許で考えると、2005年1月現在で、機械電気工学科に在籍する学生がこれまでの創造演習、創造製作、工業所有権、ベンチャービジネス論、アイデアコンテストなどを通して提出したアイデアの中で、特許出願が可能と思われるものは40件以上存在すると思われます。機械電気工学科の学生は本科でおよそ200名強ですので、5名に1人は特許出願可能なアイデアを持っているということになります。そして特許以外のアイデアとして、創造演習作品やベンチャービジネスプランなども含めていけば、オリジナルアイデアを提出した学生はもっと高い比率になり、5年生で言えば、クラスの半数程度はオリジナルアイデアを提案した実績を有すると考えられます。発想する機会の多い機械電気工学科の学生の発想力は間違いなく向上していると考えられます。

徳山高専生のアイデアが商品として登場か

これまで徳山高専生の出願した特許は2002年度4件、2003年度4件であり、2004年度には8件程度の出願になると見込まれています。これらのアイデアは、いずれも生活に密着したものや、若者の発想を活かしたものなどで、商品としても販売可能なものが多く存在します。そしてこれらのアイデアの中から、商品化へ向けた具体的な取り組みが始まったものがありますが、ここでは一つだけ紹介します。

これは先に示した例の中にも含まれていますが、現在専攻科1年生の兼行秀和君が考えた足マウスは、周南地域地場産業振興センターの平成16年度ものづくり支援事業に選ばれました。地域産業の商品開発を援助するセンターの方々から、商品化の可能性を認められたわけで、現在商品化のための試作をセンターの原田伸夫さん（本校機械電気工学科卒業生）からアドバイスをいただきながら進めています。

既に身障者の方やキー操作に集中したいユーザーから、試作品に関する問い合わせもきており、2005年中には実際の商品が、誕生する見通しです。徳山高専生が考案したアイデアで、特許で権利を確保した商品が登場することになります。他にも商品化の可能性を持つアイデアが存在しますが、アイデアは公開すると価値を失う性質があるため、ここでは一つだけ紹介しました。2005年中には足マウス以外にも徳山高専生の生み出す商品が登場することは間違いないと思われます。

これまでの創造教育で得られた教訓

平成7年からの創造教育の取り組みを通して、高専の目指すべき教育目標としての創造力を有した技術者育成が、まだまだ不十分な点は有しながらも、達成可能であることは実証されつつあると思われます。これまでの経験を踏まえて、創造力育成を行う上で着目すべきポイントを整理してみます。

イ. 創造教育は低学年から開始することにより効果が高まる

創造教育はその効果を確認することが困難な面を持っています。そこで機械電気工学科では創造教育の成果を積極的に外部のコンクール、コンテストに応募することとしました。その結果2000年に先端技術大賞に入賞して以来、各種のコンクールで連続入賞するようになってきており、その主なものは先に紹介したとおりであり、まとめると表1のようになります。表中の（ ）の中の数字は、入賞作品が作られた学年を示しています。

表1 創造教育の主な成果

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
先端技術大賞表彰制度	努力賞 (2)			特別賞 (2)	特別賞 (3)
理工系学生科学技術論文コンクール	優秀賞 (3)	努力賞 (2)	努力賞 (3)	努力賞 (1)	作品応募中
学生特許出願			4件 (1,2,3)	4件 (2,3,4)	8件 (2,4,5,MC1)
キャンパスベンチャーグラ ンプリCHUGOKU			優秀賞 (3)	奨励賞 (3) 佳作 (4)	優秀賞 (5) 特別賞 (MC1)

たとえば先端技術大賞表彰制度において2000年に入賞した浅本誠君は、1、2年次の創造演習の作品をまとめて応募し、特別賞を獲得しました。またこのとき浅本君以外の入賞者はすべて大学院生という中での入賞でした。この表中の数字に注目すれば分かるように、これらの入賞は3年以下の入賞が多数を占めています。

すなわち1年生から創造教育を開始した結果、学生の思考力、発想力に飛躍が生じていて、対外コンクールでは高校年齢の段階の高専生が大学院生や大学生と対等な力を発揮しているということです。このように創造教育は1年生から開始することで、その効果が高まると考えられます。また高校年齢段階から創造教育を開始することで、思考力などでの飛躍が生じると考えられるということは、高校年齢段階から教育を開始する高専教育の特徴を最大限に活かすものであり、大学には真似のできない特徴といえると思われま

ロ. 学生の発想する機会を切れ目なく設けること重要

先に示したごとく、1年生より創造教育を開始することで創造力育成においてより効果が高まるといいましたが、同時に機械電気工学科の平成14年度までのカリキュラムでは、3年生までに創造教育が連続的に厚く配置されていました。その結果、3年以下において成果が大きく現れていたのだと思われま

一方、14年度までのカリキュラムでは、上学年において学生の発想を求める授業が少なかったことが、上学年で成果が少なかった理由と思われま

ハ. 自ら伸びる創造教育で大きな飛躍が生じる

本学科の創造教育は学生の興味や関心を伸ばすことで創造力の発揮を促す方法で行なわれていますが、この方法が学生の持っている能力を大きく飛躍させるものであることが実証されてきたと思われま

例えば先に示した、先端技術大賞表彰制度や理工系学生科学技術論文コンクールなどでは高校年齢段階の高専生が大学生や大学院生に匹敵する力を発揮しています。自分達よりも数年からそれ以上、多くの学習を積み重ねているはずの学生達と対等あるいはそれ以上の力を示すということは、自らの興味や関心を伸ばす教育方法は、通常の学習方法と違って、能力を飛躍させる効果を持つものであると考えられるわけ

また自分の興味のあることを追求していくので、少々の困難は乗り越えてしまいます。たとえば先に示した4年の原田秀彰君はCFRPのサスペンションを設計するために、3年前期の段階で材料や設計の勉強を自力でこなしています。また5年の藤井健君はRCカーのスピードアップを図るために、従来構造では限界があることを見抜き、独自の構造を考案し、自らの手で設計図を書き、それをもとに工作もこなしてしま

出でよ「技術のイチロー、松井」

従来の行き方では、もはや日本社会を維持していくことは難しくなっています。そのような時代に通用する教育が求められています。それではどのような力が必要なのでしょう？ヒントはたくさんあると思

野球の世界をみれば、日本の若者がMLBで大活躍しています。そこで成功しているプレーヤーに共通するものは何でしょう。それは何と言っても野球が好きということです。そしてうまくやりたいというひたむきさがあります。自分で創意工夫する力があります。

やはり何よりも大事なことは、興味や意欲だと思

高専こそが「技術のイチロー、松井」を育てられる場所ではないかと思

JABEE認定校

国際的に通用する教育の品質を保証

本校では、本科4・5年と専攻科のカリキュラムで「設計情報工学」プログラムを構成しています。このプログラムは、国際的に通用する技術者育成に適合するものとして、日本技術者教育認定機構（JABEE）から工学（融合複合・新領域）関連分野で認定を受けました。学校全体の認定としては大学を含め全国で3番目で、平成15年度から適用されます。

JABEEとは？

Japan Accreditation Board for Engineering Education
日本技術者教育認定機構の略称で、大学や高専など高等教育機関で行われている「技術者教育プログラム」が社会の要求水準を満たしているかどうかを評価・認定します。JABEEによる認定は、教育環境も含め、入学から卒業までの教育プロセスすべてを含めたもので、わが国の工学（技術）教育を質的に向上させ、国際的に通用させることをめざしています。

徳山高専のめざす教育は？

本校では「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を学習・教育目標に「設計情報工学」を技術者教育プログラムとしており、コンピュータに関連した情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者を育てようとしています。



認定を受けるとどんなメリットが？

- ・就職で有利、相対的に地位の向上
- ・技術士一次試験免除で「修習技術者」に最短距離(26歳)で「技術士」の取得が可能
- ・ワシントンアコード加盟国(米、英、豪など8ヶ国)の大学を卒業したのと同じ資格に(2005年度以降見込)

徳山高専専攻科では

全員、保証します！

- ・「学士」の取得
- ・TOEICスコア400のクリア
- ・情報関連等技術者資格の取得
(情報処理技術者、二級建築士、機械設計技術者3級、など)
- ・学協会で発表できる能力



第1回プログラム修了証授与式

編集後記

昨年の6月で徳山高専が創立30周年を迎えたことを記念して、「高専だより」第58号は、創立30周年特集号としました。特集の目玉として、過去30年の写真を整理し、「写真でつづる徳山高専の30年」に掲載しました。編集に当たっては、徳山高専の過去の歴史がよくわかるように、10年ごとに段階を画してページの割り当てを行うとともに、徳山高専の「いま」もよく理解できるように心がけました。映画「ロボコン」のロケマップや徳山高専夢広場の特集は、このような編集方針を反映したものです。ご覧になって、草創期の模索を経て現在の充実した教育・研究環境に至る徳山高専の歩みを理解していただければと、編集に携わった者一同願っています。一方で、今号で別に項立てを行った「創造教育の成果」や「進路支援室の発足」、「就職進学状況」については特に触れませんでした。独立行政法人化やJABEE認定など昨年度の出来事については「徳山高専十大ニュース」をご覧ください。最後に、特集号の編集に当たり、前職員の金弘淑子さんに整理していただいた、写真データベースとフォトCDを使用したことを申し添えます。ありがとうございました。
(創立30周年特集編集担当 工藤 洋三)

徳山工業高等専門学校
Tokuyama College of Technology

徳山高専だより No.58

発行 総合企画室

所在地 〒745-8585 山口県周南市久米高城3538

TEL (0834)-29-6200(代表)

印刷 大村印刷(株)

発行日 2005年(平成17年)3月1日

URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

Tokuyama College of Technology

